

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人むそう ほわわ品川			
○保護者評価実施期間	R8年1月5日		～ R8年1月17日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	R8年2月20日		～ R8年2月28日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月4日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療依存度の高いおきさんも安心して通所できるよう、おきさんの過ごす環境や、安全・衛生面に配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動室を清潔に保ち、心地よく過ごすことができる環境を作ること。 ・利用開始時(それ以降は年1)は医療的ケアやアレルギー等の緊急時対応を保護者と見直しをしている。 ・医療的なケアが必要なおきさんは、看護師を中心にケアの引き継ぎをしている。福祉職は喀痰吸引3号研修を受講しており、医療職以外も日常のケアの実施し活動の幅を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境については、おきさんが遊んだり片づけたりしやすいような棚を作る。 ・おきさんの身体面や医療的ケアの理解、緊急時の訓練や研修を行い、職員のスキルアップを図る。
2	1人1人の利用者さんに合わせた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を確保することは前提にある。医療的ケアがあるおきさんも身体を起こして、身体を動かす活動を取り入れている。 ・次の発達を促せるようにおき様毎に発達段階のアセスメントを行っている。 ・様々なものに触れられる身体を作るために、オイルマッサージを行っている。肩甲骨や股関節を動かすマッサージも取り入れ、身体をほぐし循環を良くしている。 ・大きな動きの遊び(バランスボールや滑り台、ブランコ等)の遊びを介助者と一緒に行い、揺れたり滑ったりする感覚を味わう。これらの感覚を味わう遊びを楽しめるようになると、手の微細運動の向上にも繋げている。 ・視線入力やVOCA等のコミュニケーションツールも導入し、利用者毎に意思表示の方法を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や通所期間により、活動のプログラムや目標とする活動の変化をしていく。 ・発達特性のアセスメント力や構造化、理解しやすい方法での伝え方などを職員が学び、利用者さんが見通しをもち過ごしやすい環境を作る。 ・目・首・手が使いやすくなるために、利用者さんに合った楽な姿勢を獲得できるようにする。理学療法士や作業療法士とも連携する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	チームによる支援計画の決定について	・チームで支援しているが、決定のプロセスが保護者から見ると不明瞭である。	・チームでの支援計画決定について、面談や書面等を通じて、保護者に具体的にお伝えする。
2	外部との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医とは、看護指示書や喀痰吸引指示書と報告書のやり取りをしている。 ・訪問看護ステーションとは必要に応じ情報共有している。 ・おきさんごとに相談支援事業所へほわわ品川での様子をお伝えし、生活全体の目標を確認している。 	・おきさんごとに関係機関との連携を図る際には、やりとりすること、やり取り途中のこと等を保護者へもお伝えする。
3	将来の就園・就学に向けての関係機関とのつながりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・就学の時期には、教育委員会への情報提供、就学先の学校がほわわ品川の現場に見学に来る機会を設けている。 ・保育園に就園するときにも、保育園へ足を運んで情報共有することがある。 ・上記のようなことを保護者へお伝えする機会がない。 	・個別に関わっているケースの内容を、全体に発信する機会がほぼない。個人情報に留意しながらも、取り組みを会報等で発信する。